

ellipse

[エリプス]

楕円 (ellipse) には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心 (焦点) となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。

INTERVIEW

広中和歌子氏に聞く



風のカノン (木炭)

風が吹くたびに草木が揺れ、女性の髪がなびく。まるでカノン (輪奏) のように。

吉村 雅利 画
〈お茶の水女子大学附属高等学校教員〉



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会

REPORT
お茶の水フェスティバル
REPORT
女性起業セミナー

INFORMATION
「就職セミナー」参加者募集
德音祭に出店します
講師輪流について
事務局よりお知らせ

おいしいパン 食べてますか。

ミミまでソフトで、ほんの〜り甘い。

こだわりを大切に
大切に作る人に、ぜひ選んでほしい食パンです。

ヤマザキ



しみじみと心のかよう 贈り物



どらや

http://www.toraya-group.co.jp/
お問い合わせ・ご注文 [お客様相談センター]
Tel: フリーダイヤル 0120-45-4121

三省堂

新グローバル英和辞典 第2版

木原研三 監修 山岸和夫 編者代表 3,100円

学習英和辞典の決定版『新グローバル英和辞典』の全面改訂版。新語を多数加えた中辞典なみの総収録項目数10万を実現。本義・分義方式の定評ある語義記述をさらに充実。生きた用例を大幅に増補し、コロケーション欄も倍増。語法、類語などの参考情報を充実。約1万語に語源を付す。2色刷。

コンサイス英和辞典 第13版

木原研三 編 3,200円 革装4,200円

大改訂・ページ増により現代英語を大幅に取り入れ、俗語、日常語から専門語まで、約13万項目を収録。成句・用例も充実させ、この一冊で新聞・雑誌から本格的な読書までほとんどの使用場面に対応。伝統に裏付けされた完成度の高い編集により、研ぎ澄まされた簡潔・明解な語釈を実現。

千代田区三崎町2 22 14 (03)3230 9412 http://www.sanseido.co.jp/ <価格税別>

保険も目的に応じて「無駄なく合理的に」 シェイプアップさせましょう。

安心・安全 そして 信頼
選ぶのはあなたです。

お気軽にご相談ください
ハイハイナーニ
フリーダイヤル **0120-818172**

東京海上火災保険・東京海上日動あんしん生命 代理店

セイワインシュアランス

〒330-0802 さいたま市大宮区宮町4-16 セイワアネックス2F
Tel 048-649-5761 Fax 048-641-0596
mail:seiwa0019@coral.ocn.ne.jp
URL:http://www.tm-agent.com/seiwa/

青島 朋子 (S53地)・渡邊 英子 (S27体)
小暮 瑞枝 (S43児)・石井 佳代 (S54食)

女性11人の保険コンサルティング会社です。



◆事務局所在地
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関
地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分
地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分
都バス
大塚2丁目バス停すぐ

編集後記

広中和歌子氏のインタビューは、世代の差を感じない共感できるお話でした。28年前のエッセイを読んでも、これまた新鮮。…ということは、女性と職業の問題も世の中もそんなに変わってないの!? と思いました。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は1月発行です。約5,000部発行。広告料金は20,000円/回、会員の皆様をはじめ全国の公共機関などに送付します。その他、ブックレットの広告も募集しておりますので、詳しくは事務局へお問合せください。

事務局

OPEN 月~金 9:30~15:00
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail: info@npo-ochanomizu.org
http://www.npo-ochanomizu.org

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字しております。

広中和歌子氏に聞く

日米の文化比較、教育、女性の生き方についてのエッセイや翻訳などで注目を集め、1986年からは参議院議員としてご活躍中の広中和歌子氏に、ご自身の人生を振り返り、お茶の水女子大学の思い出や母校への期待について語っていただきました。

— 広中さんがお茶の水女子大学・附属学校に通っていた頃は、どんな時代でしたか？

戦争が終わって間もない1947年に国民学校を卒業したんですが、このときに学制が変わりました。昔の女学校、中学校は高等学校に格上げされ、近所の新制の中学校は小学校の中に仮設されたような状況でした。お茶の水は国立だし、今までの女学校の中に中学校の部と高等学校の部ができたということで人気が高く、25名ほどの定員に10倍の応募があったんですが、まぐれで合格しました。

中学から高校への進学は、日比谷高校や小石川高校のような男女共学の学校に出たかったんですが、母が「お茶の水」というブランドを気に入っていて、結果的には高校もお茶の水に通いました。

当時の附属高校は、知的な中産階級の子どもの子どもが集まっています。自由の中に規律があり、とても良い学校だったと思います。私はあまり勉強はしなくて、小説を読んだり、友人と話をしたり、好きなことをして過ごしました。

この時代は、戦後のアメリカ文化がどんどん入ってきたから、男女平等、民主主義という新しい考え方、新しい方向を日本に指し示した「アメリカ」に対して、それは強烈な興味を抱いていました。学校の英語の授業では飽きたらずに、英作文や会話を習いに塾に通ったりしていました。

— 大学に進学してからは？

入学したとたんに、非常に戸惑いを感じました。というのも、いきなり、ワーズワースの詩やシェイクスピアから始まるんです。シェイクスピアを2時間かかって4ページ読むような演習ばかりで閉口しました。アメリカを知りたい！英語が好きだ！という当時の強烈な興味関心と、英文学とは全然違うわけです。すっかり失望してしまいました。

その頃、ミルズ先生というオックスフォードを出たばかりの先生が、美しい英語でワーズワースの詩を読んでくださったことを記憶しています。学んで無駄なことはないと思いますが、後に、ケンブリッジ、オックスフォードを訪れたときに、その詩の一節を思い出したりして、ひとつの教養として私を豊かにしてくれたことには感謝します。ただ、新しい社会に向かって戦後の日本が必死にがんばっているときに、当時の若い私の好奇心を満足させる分野ではなかったんです。



広中和歌子氏プロフィール

参議院議員 民主党千葉県総支部連合会 代表

1957年お茶の水女子大学卒業後、アメリカへ留学。数学者広中平祐氏と結婚、一男一女の母となる。約20年の滞米生活の後、教育、文化、女性の社会参加などの分野で、講演、対談、翻訳、エッセイなど広範囲に活躍。湾岸危機では世界の女性国会議員の署名を集め、人質解放を求めてバクダッドへ飛ぶ。細川内閣では環境庁長官に就任。GLOBE・Japan（地球環境国際議員連盟・日本）事務総長を務める。地球憲章推進日本委員会事務局長
ホームページ <http://www.st.rim.or.jp/~hironaka/>

高校の時点で、将来何になりたいのか、何のためにどんな勉強がしたいのか、という進路指導があればよかったと思います。アメリカの高校では、1000人の学生に対して5~6人のカウンセラーがいて、全米の大学から学校案内や職業紹介を集め、ひとりひとりに指導をしていますが、そういったオリエンテーションの必要性を非常に強く感じました。その後、1968年頃、大学改革の波が全世界にふきあれましたね。大学教育が成長する若者にどう関わるのか、学問そのものは社会とどう関わるのかということ、学生たちが主張していたわけですが、私もそれと同じ疑問を1950年代に感じていました。

— 日本の大学に失望して、アメリカに留学したんですか？

というより、就職先がなかったんです。同期でも2~3人は教師になりましたが、あとはみんなお嫁に行きましたね。自分たちのアスピレーションや教育にふさわしい職場がなかったんです。世間には、職業婦人になるより、いい人を見つけて「〇〇夫人」になる方が、女性としてまともだというような感覚さえありました。

このときも、もし、大学が女子の「教育」だけでなく「就職」を考えてくれていたら、違っていたらと思います。たとえば、公務員試験があるとか、外交官試験があるとか、どうして教えてくれなかったんでしょう。知らないこちらにもバカなんです、身近にロールモデルがない。働く女性といたら、学校の先生ぐらいしか見たことがないわけです。アメリカに行けば、もうちょっと違った女性の生き方があるのではないかと思います。

ちょうどそのとき、とてもよい奨学金をいただくことができ、1958年にブランダイス大学に留学することになりました。

— アメリカの女性たちは、どんどん社会進出していたんですね？

ところが、そうでもなくて、その時期のアメリカは保守的で、大学でいい婚約者を見つけて結婚する人が多かったんです。いずこも同じなのかなぁと思って、私も家庭に入りました。でも、家電製品が充実しているし、クルマで買物もできるし、そんなに家事は大変ではないわけです。それで、夫がブランダイス大学に勤めはじめたころ、その大学院で文化人類学を勉強しました。子どもが生まれると、嬉しくて、博士号なんかどうでもよくなってやめました。それから、夫はコロンビア大学、ハーバード大学と移るんですが、その頃には、子育てだけではどうも物足りなくなり、大学で統計学、語学、哲学、歴史、女性学など、いろいろな講義をとって勉強していました。

— 子育てしながら勉強する生活はいかがでしたか？

もう最高～！アメリカにはベビーシッターがいましたし、語学など子育て中のコマ切りの時間を使って勉強するには向いているんです。女性が結婚してから学校に戻るの、とても良いことだと思います。結婚によって人生の座標軸が定まりますし、女性の体の発達、子育てを通じた母性の目覚めなど考えると、そこから本当の意味での女性の出発があると思うんです。ところが、それまでの日本の女子教育は、結婚するまでの教育であって、そこから先の人生があることを踏まえた女子教育ではないわけです。女性には女性のライフサイクルに合った教育があるのではないかと思います。

— 女子大の存在についてどう思いますか？

ハーバード大学で女性学を勉強する中で、女性の心理やアスピレーションが男性と同じなのか違うのか、教育システムが男性と同じでよいのか、いろいろ考えさせられました。あまりご存じないでしょうが、戦後アメリカから日本にもたらされた「六三制」の学制も「男女共学」も、必ずしもアメリカで実行されていたものではなかったんです。戦後すぐに日本が共学化した頃、ハーバード、オックスフォード、ケンブリッジはまだ男子校でした。



▲ブランダイス大学留学時代の広中氏、左はケネディ上院議員。

女子大について、ハーバード、スミス、オックスフォード、ケンブリッジ、それからフランスのエコール・ノルマル・シュペリエールなどで調べたことがあるんですが、女子大を残しているところが意外と多くて印象的でした。女性が成長期に男性と一っしょに勉強していると、潰されてしまうこともある、共学だとリーダーシップを発揮するチャンスがどうしても男子の方にいってしまう、だから女子大の方が良いのだという考え方があるんです。

アメリカの名門女子大では、卒業後ほとんどの人が大学院に行きます。女子大という学びやすい環境で知的な関心を研ぎ澄まし、自分に自信ができれば男女共学に行くというケースも結構あるんです。

— 女性のキャリア形成に必要なものは？

学びたいときにいつでも学校に入れるしくみが必要ですね。それから雇用もそうです。いったん会社を辞めると、途中から社会に入っていくことが難しいので、本当は子育てに専心したい人まで、仕事にしがみつけないといけない。子どもを生み育てる時期が女性にとって重荷になり、子育てに専心することがペナルティになるような社会というのは、良くありません。

すべての人が同じである必要はなく、私のように結婚後、再発する人もいれば、ずっと仕事を続けている人もいます。女性だけでなく男性も、多様性を容認する社会を作っていくかなければならないと思います。

アカデミックな分野に行く人は大学院に進めばよいし、そうではない人は、学部でしっかり教養を身につけて、社会人としての信用力を高め、それから医者になったり、ロースクールに行くことがあってもいいと思います。

女性は資格のある仕事、例えば、弁護士・医者・公認会計士のような方面に進むと、子育て中に第一線から退いても、復帰ができますよね。昔はそういった知恵をだれも授けてくれなかったんですから。大学は女性のキャリアのためのガイダンスに真剣に取り組んでほしいと思います。

— 母校であるお茶大に卒業生として期待することは？

政治という私の仕事の視点から見ると、世の中にはいろいろな仕事や役割があるのに、お茶大は「清く正しく純粋に」アカデミックなものを追究している印象があります。それだけではなく、社会全体に関心を持ち、社会でリーダーシップを発揮する人を育てることもしてほしいと思います。

戦争体験のある私のような人間にとって、国の政治というのは非常に大切なことなんです。人任せにはいけないことなんです。女性は政治の批判ばかりに陥りがちですが、自分たちが政治に参加して、もっと豊かな満足度の高い社会にしていくこと、そのために何ができるか考えることを、もっと女性たちに教えてほしいと思います。

第1回 お茶の水フェスティバルが 開催されました！

2003年5月31日、お茶の水女子大学において第1回お茶の水フェスティバルが開催されました。悪天候にもかかわらず予想を超える多くの方に参加いただき、本田和子学長の機関銃トークと土屋賢二先生の爆笑トークにみなさん大満足の様子でした。

お茶の水フェスティバルは、当初はお茶の水学術事業会の第1回総会開催後の講演会として企画されましたが、お茶大の卒業生や地域の方に「お茶の水学術事業会」をアピールする良い機会なので、お茶大出身の教官の力をおかりし、さらに、附属学校の協力も得て、お茶の水学術事業会、お茶の水女子大学・附属幼稚園・小学校・中学校・高等学校が主催する大々的なイベントとなりました。

第1部 ● 講演会



本田和子学長

「お帰りなさい」。本田学長はすてきな笑顔で卒業生が多く来場している会場に語りかけ、「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」について話しはじめました。堅いテーマにも関わらず、笑いを誘いつつわかりやすくお茶の水女子大学の意義やこれからについて説明されました。

来年4月から従来の国立大学ではなく、国立大学法人お茶の水女子大学という1つの法人になり、教育研究と経営の責任をもって大学運営を行うことや、127年の伝統と蓄積をふまえて、女子大として存続していくことで、学生に限らず学窓を離れた女性や発展途上国の女性など学びたいすべての女性を支援することなどを話されました。お茶の水学術事業会を設立し会員制にしたのも、一過性の寄付ではなく、長いタイムスパンの中で、お茶大のことを忘れないでお茶大のことを支えてもらいたいという思いからであることを説明されました。



当日の様子は <http://www.npo-ochanomizu.org> をご覧ください。



土屋先生と学生ボランティアスタッフ

続いて、土屋先生の講演。始まる前から、笑いをこらえている人が散見され、聴衆の期待がひしひしと感じられました。司会の篠塚英子先生の挨拶にも「あごがはずれないようにご注意ください」とありました。言葉通り、おなかを抱えている人や涙を流している人など会場は爆笑の渦に巻き込まれました。タイトルは「お茶の水女子大学はどんな人間を生み出してきたか～被害者の観点から」。お茶大出身者の12の長所をあげて解説し、「こういうお茶大出身者がいる限り日本は安心だと思う」と締めくくりました。そして、堂々と予定より30分もはやく講演を終りました。

講演録は、お茶の水ブックレット2「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」（定価500円、送料別）に収録しました。本田学長と土屋先生の講演内容の他、本田学長の参議院での質疑応答も掲載されています。当日お越しになれなかった方、12の長所が気になる方、当日の笑いを再現したい方は、ぜひご一読ください。必ず笑えます。

第2部 ● 懇親会

16時15分よりスタート。ガーデンパーティの予定が雨のためマルシェ（学生食堂）での開催となりました。司会は菅聡子先生で、乾杯の挨拶は本田学長。昔話に花が咲いているグループや、恩師との久しぶりの再会を喜んでいる人たちなど、みな学生の頃の顔に戻っていました。子どもの姿もあり、和やかで楽しい懇親会は、お茶の水管弦楽団OG有志の演奏も会に華を添え、大盛会となりました。

開催準備について

開催にあたって、お茶大出身教官によるお茶の水フェスティバル実行委員会（平野由紀子委員長）が結成され、教育研究活動で多忙な中、時間をやりくりしてフェスティバルの準備にあたりました。卒業生や知人に宣伝したり、当日のために会議を重ねたりと大変な労力を費やしました。フェスティバルが盛会のうちに終了できたのも、実行委員会のすばらしいチームワークと大勢のボランティアのおかげです。「お茶の水フェスティバル」が附属学校、在学生、卒業生、教職員、地域の方を巻き込んで、いろいろなネットワークづくりの一翼を担うことができると願っています。次回のお茶の水フェスティバルもお楽しみに！

大好評のお茶の水フェスティバル！

～アンケート調査より～

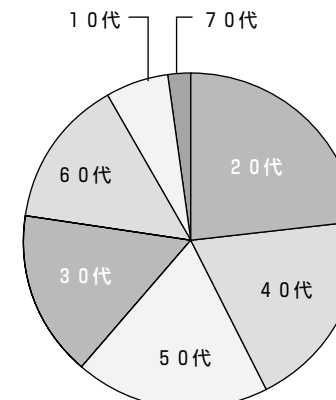
お茶の水フェスティバルは、以下のアンケート結果が示す通り大好評でした。附属幼稚園といずみ保育所（昨年10月に大学内に新設）の協力で、小さな子どもを預かる保育サービスを用意しました。講演会を落ち着いたところでも好評でした。来年のフェスティバルに、さらなる皆様のご協力、ご参加をお待ちしております。

【参加者数など当日の記録】

第1部 講演会 参加者	約350名
第2部 懇親会 参加者	185名（+スタッフ56名）
ボランティア数	83名
寄付金合計	96,160円
当日入会者数	13名
ボランティア登録者数	5名

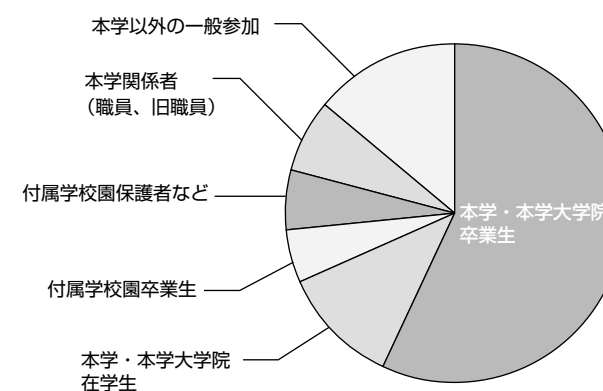
【あなたの年齢は？】

（有効回答数181）



【あなたとお茶の水女子大学との関係は？】

（有効回答数158）



卒業生が57%を占め、出身学科は、国文・英文・哲学が多数でした。ほとんどすべての学科から参加がありました。また、幅広い年齢層の方が来場しました。



ご感想をひとこと



〈よかった点〉

- ・学長のユーモアと元気にあふれたお話しぶりに感銘を受けた。しかも内容がよく伝わる話でした。
- ・土屋先生の話はたいへんおもしろかった。涙がでるほど笑った。
- ・お話が大変おもしろく、雨の中タクシーでかけつけた甲斐があった。
- ・大学のセミナーでこんなにも面白く、不真面目なのもめずらしい。
- ・久しぶりに学生気分での講演を聞き、とても充実した時間を過ごすことができた。
- ・お茶大の新しい活動を体感できた。文書のみではわからないたくさんの発見があった。
- ・お茶大の今後の方向が明確に説明され、とても心強い思いがした。「卒業生をはじめ学びたいすべての女性を支援する」という方針を伺い、卒業後関わりが少なくなりつつあった母校が身近なものに感じられた。
- ・理系という男性優位の社会で、女性を対象に教育し、研究者となるよう育てるというシステムはとても魅力的だ。
- ・新しい試みに感謝します。さっそくクラスの友達に連絡してみようと思う。
- ・急な企画でもこれだけの講演者をそろえられるところに、お茶大の潜在力を感じて安心した。腐っても鯛？！
- ・案内係の対応がしっかりしていた。遅刻者への誘導が適切だった。
- ・受付の対応がとてもよかった。気持ちよかった。このあたりが女子大の良さだとも思った。
- ・傘袋まで用意してあり、サービスがとてもよかった。
- ・保育があつてもよかった。今後もぜひ保育つきにしてほしい。
- ・講演会が早く終わったため、パーティーを繰り上げるという迅速な対応がすばしかった。
- ・今後もこのころに行うなら、同窓会と一緒にしたい。次の企画を。

〈改善点〉

- ・シンポジウム形式とか、質疑応答など会場との対話を考えてほしい。
- ・雨だったからしかたがないかもしれないが、換気が悪く、蒸し暑かった。
- ・窮屈だったので、もっと大きな会場でしてほしい。
- ・最近各大学ともPRIに一生懸命で、以前のような研究報告、紀要の出版が少なくなったことを危惧している。
- ・今後のテーマはもっと社会とかかわりのあるものを希望する。
- ・卒業生の若手の講演があつたらおもしろいと思う。
- ・中高年者の編入を放送大学方式で受け入れてくださることを期待する。
- ・法学コースや会計士、薬剤師などの各種資格が取得できるコースの充実を期待する。
- ・女性キャリア養成コースの設置が必要と思う。
- ・在学生にもっと事業会のことをPRしてほしい。

女性起業セミナーが開催されました！

起業に関心のある女性を対象に、起業の心構えや事業計画の立て方、資金調達のしかたなど、実践的な内容の講義が行われました。



第1回 6月27日(金) 18:30~20:00 起業の心構えと起業の基礎知識

講師 鹿住 倫世氏 (かすみともよ)
高千穂大学経営学部助教授
(お茶の水女子大学家政学部家庭経営学科 卒業生)



「月30万円の収入を得ようと思った場合、月の売り上げはどのくらい必要だと思う?」。ビジネスモデルを考えるだけでなく、事業規模と自分の収入を合わせることや経営スタイルなど基本的なことを学びました。

第2回 7月4日(金) 18:30~20:00 女性起業家の体験談

講師 唐澤 理恵氏 (からさわ りえ)
株式会社サブリネット 代表取締役
(お茶の水女子大学家政学部被服学科 卒業生)



とにかくパワフルで明るい唐澤講師のお話、ぐいぐい引き込まれました。ノエビア初の女性取締役に就任しながら、その座をなげうって起業した経緯や、現在の仕事の話はとも興味深く、大変刺激になりました。

第3回 7月11日(金) 18:30~20:00 起業に必要な資金と調達方法

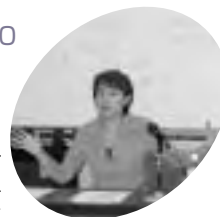
講師 酒井 俊行氏 (さかいとしゆき)
アート印刷株式会社社長付カウンセラー
国民公庫を中心とした国の融資制度や



エンジェル・ファンドなど資金調達の手段を具体的に知ることができました。経済産業省は、企業の自立化・成長企業育成に力を入れており、起業を目指す人にとって追い風になっていると、受講者たちを鼓舞しました。

第4回 7月18日(金) 18:30~20:30 事業プランニングの基礎知識

講師 鹿住 倫世氏



対象顧客は、成長性は、採算性は、競合相手は、ライバルがいたほうが市場が広がることなど、事業計画の作成にあたりどのようなデータや情報を収集し考慮するか、豊富な具体例による説明はとてわかりやすく、「起業するぞ!」という気分を高めました。

受講者の感想

起業についての基本的な考え方がよくわかりました。特に事業計画書の書き方や融資を受ける方法について具体的な情報が得られて有意義でした。パワフルな起業家の体験談も印象的で大いに触発され、自分でぜひ何かにチャレンジしてみたくくなりました。

鹿住先生のリアリティ溢れるお話を伺うことができ、楽しく受講しました。私にとっては一番モヤモヤと霧に覆われた分野でしたが、丁寧なご講義のお蔭で少し霧が晴れました。データ化・数値化することで驚くほどはつきり見えてくるものがあることを知りました。

今やっているボランティア活動を生かしてビジネスにならないかと考えています。利益があがりそうにないことなので、NPOでやるか会社にするか迷っています。もう少しよく考えてみます。

お茶の水学術事業会 入会要項 あなたの社会参加の第一歩としてぜひご入会ください！

- 入会資格 趣旨にご賛同くださる方なら、どなたでも入会できます。
- 入会方法 郵便局の払込取扱票にお名前・住所・電話番号、通信欄に必要事項〈会員区分/生年月日/会費口数/メール/FAX〉をご記入の上、今年度分の会費をお支払いください。入会受付後、1ヶ月以内に会報のお届けと会員番号のお知らせをいたします。

【郵便】00100-3-583029
特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会

- ※払込手数料は各自でご負担ください。
- ※郵便自動払込(口座からの引落し)を希望の方は、事務局より必要書類をお送りしますので、ご連絡ください。郵便貯金の総合口座が必要です。払込手数料は当方が負担させていただきます。
- ※ホームページからお申込みいただく場合は、払込取扱票の通信欄にはご記入なさらないでください。

- 会員区分 正会員 個人賛助会員 法人賛助会員
 - ※正会員には議決権があり、毎年5月の総会にご出席いただけます。欠席の場合には、委任状を提出していただけます。個人賛助会員・法人賛助会員には、議決権がありません。
- 会費 個人 月会費 1口 500円(年 6,000円)
※できるだけ2口(年12,000円)以上お願いします。
法人 年会費 1口 30,000円

- その他
 - ・ご寄付も随時受け付けております(金額自由)。
 - ・会員と寄付者に感謝の意を込めて、会報やホームページにお名前を掲載させていただきます。匿名希望の方または金額の掲載を希望されない方は、その旨を通信欄にお書き添えください。
 - ※匿名希望の有無にかかわらず、会員名簿を配布したり、住所などの個人情報を外部に提供することは一切ありませんので、ご安心ください。

「就職セミナー」参加者募集

「就職活動に向けて、何か始めなくては…でも何をすればいいの?」という大学生のために今年の内定者の話を聞く機会を提供します。自由に質問する時間も設けますので、就職活動についての「わからない」を解消しましょう!

日時: 2003年9月30日(火) 13:00~15:00
場所: お茶の水女子大学 理学部3号館 2階会議室
対象: 女子学生(1~2年生、他大学からの参加大歓迎)
参加費: 無料
内容: 第1部 13:00~14:00「内定者による就職活動体験談」
第2部 14:00~15:00「質問・交流会」
講師: 第1部は内定者3名(学生起業家、出版、メーカー)*予定、
第2部は第1部の3名+内定者3名(情報、金融、サービス)*予定の計6名
お申込み: TEL 03-5976-1478 info@npo-ochanomizu.org
ふるってご参加ください!!

微音祭に出店します

2003年11月8日(土)、9日(日) 9:30~20:30、お茶の水女子大学の学園祭である微音祭きいんさいが行われます。今年のテーマは、「WA!!~話・和・輪~」。「話して和んで輪になろう」ということで、トークショーや演奏会、模擬店だけでなく観客参加型のイベントなどさまざまな企画が用意されています。例えば・・・「笑ってよいとも!」、「ファッションショー お茶コレ!」、ジャグリングなどのパフォーマンス、毎年恒例の音楽コース3年生によるオペラ上演「こうもり」、代々受け継がれている食物科学講座による「常盤じるこ」などなど。
お茶の水学術事業会も出店しますので、皆様ぜひご来場ください。どんなお店を出すか・・・乞うご期待!!

講師斡旋について

お茶の水学術事業会では、講演会やセミナーの講師の斡旋を行っております。ご要望に合わせて最適な講師をご推薦し、講演依頼を代行します。自治体が主催する市民講座や講演会など、講師のご要望がありましたら、お気軽にお問合せください。



お詫びと訂正

第1号4ページの記事中「性を科学する」への助成金額「90,200円」は誤りで、正しくは「145,600円」です。5ページの記事中「舞踏教育学コース」は誤りで、正しくは「舞踊教育学コース」です。お詫びして訂正いたします。

正会員の方へー臨時総会のお知らせ

お茶の水学術事業会臨時総会を2003年10月25日(土)13:00より行います。詳しくは、同封の臨時総会開催通知(正会員のみ同封)をご覧ください。返信用のハガキに出欠とお名前をご記入の上、送付してください。ご欠席の方は委任状の記入もお願いします。

お茶の水学術事業会 第1回総会を開催しました

2003年5月31日(土)に第1回総会を開催しました。平成14年度の事業報告と収支決算、平成15年度の事業計画と収支予算について承認されました。詳しくは、ホームページをご覧ください。
<http://www.npo-ochanomizu.org>

事務局よりお知らせ

ボランティア募集

いろいろな資格・技能を持ち、ボランティアとして運営に協力してくださる方を常時募集しています。一般事務・ワープロ入力・営業能力のある方も求めていますので、ぜひ、ご応募ください。

〈募集しているジャンルの例〉

税理士/セミナー講師/通訳/翻訳/編集/テープ起こし/ビデオ制作/カメラマン/ホームページ作成/プログラミング

〈登録方法〉

- 1 ホームページの登録フォームから
<http://www.npo-ochanomizu.org>
- 2 FAXで FAX: 03-5976-1478
※氏名・住所・TEL/FAX・得意分野を記入して、送信してください。

お茶の水ブックレット

第1号「教育と平和—アフガニスタン女子教育支援シンポジウムから」(緒方貞子+OAA編集会 著)に続き、第2号「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」(本田和子+土屋賢二+OAA編集会 著)を発行しました。1冊500円(税込・送料別)でお求めいただけますので、FAXでご注文ください。
FAX: 03-5976-1478



助成事業について

社会教育の推進、男女共同参画社会の形成、子どもの健全育成を推進することを目的とした助成事業を行っています。助成を受けたい方は、受付期間(平成15年12月31日締切り)に申請してください。募集要項は事務局にご請求ください。

投稿募集

(1) 社会教育の推進 (2) 男女共同参画社会の形成 (3) 子どもの健全育成について、あなたの意見を投稿してください。原稿は郵便またはFAXで、連絡先を明記して事務局へお送りください。